

---

## 7 品目別調査結果 牛肉

---

1. 概況
2. 調査実施概要
3. 各取引段階の“量”の変化
4. 各取引段階の“価格”の変化
5. 福島県産品に対する認識

# 1. 概況

## 調査結果概要 (1/3)

### 1. 各取引段階の“量”の変化

#### 生産段階

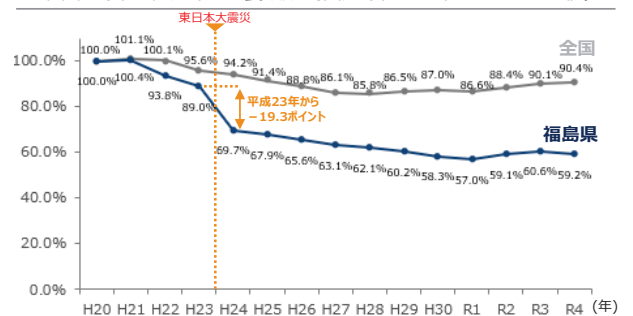
- 福島県における肉用牛の飼養頭数は、震災後も継続して減少傾向であったが、近年は平成20年の60%程度で推移している。

#### 出荷段階

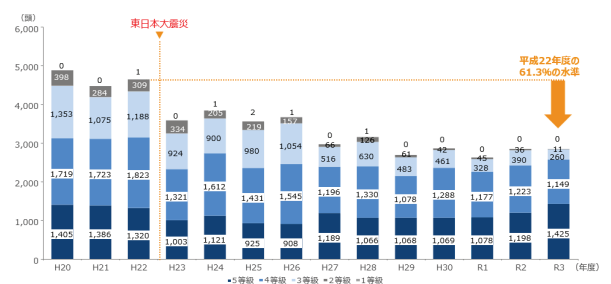
- 東京都中央卸売市場への福島県産和牛（去勢）の出荷頭数は、震災後減少傾向で推移している。
  - 出荷頭数に占める上位等級（5等級・4等級）の割合は、平成27年度以降80%前後の高い比率で推移している。

※「牛肉」とは、「和牛」「交雑種」「ホルスタイン種」を合わせた総称のこと。以下、牛肉全体を指す場合には「牛肉」、うち和牛について特別に言及する場合には「和牛」という用語を用いる。

全国・福島県産肉用牛の飼養頭数の推移（平成20年を100%とした値）



東京都中央卸売市場に対する出荷頭数の推移（福島県産和牛・去勢）



## 2. 各取引段階の“価格”の変化

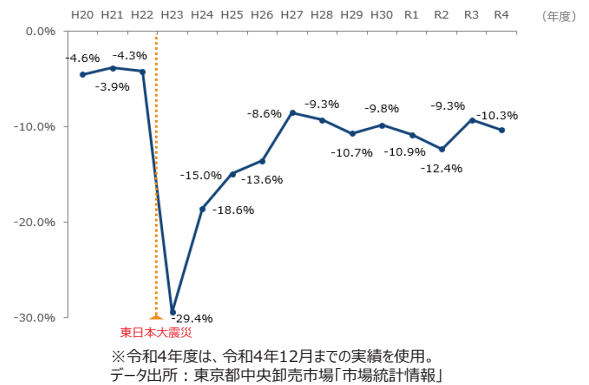
### 市場における状況

- 東京都中央卸売市場における福島県産和牛の枝肉価格は、震災直後に全国平均価格との差が拡大した。
- その後、平成27年度にかけて価格差は縮小したが、平成28年度以降は-10%程度で推移している。

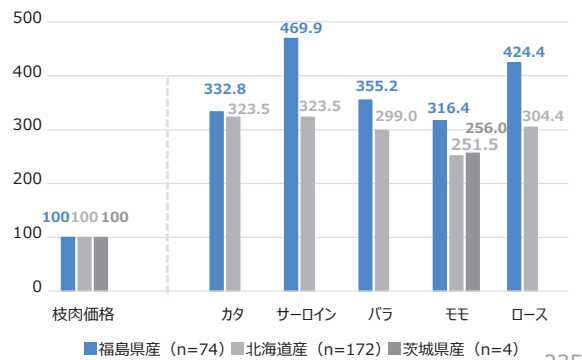
### 価格事例調査における状況

- 福島県産和牛、北海道産和牛と茨城県産和牛について、福島県産和牛の各部位の価格が高い傾向が見られた。  
※枝肉単価については、福島県産和牛よりも北海道産和牛や茨城県産和牛の方が高い傾向にある。
- 小売企業ごとの仕入・販売事例では、同一部位かつ同一等級では同一の小売価格としている事例が多かった。

全国平均との価格差推移 (和牛全体)



牛肉の枝肉価格と小売価格の比較 (部位ごとの産地間比較)

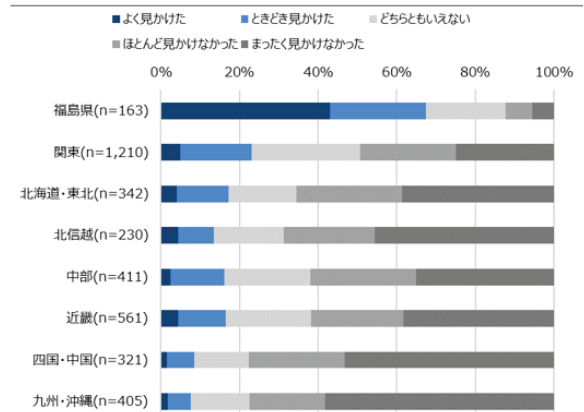


## 3. 福島県産品に対する認識

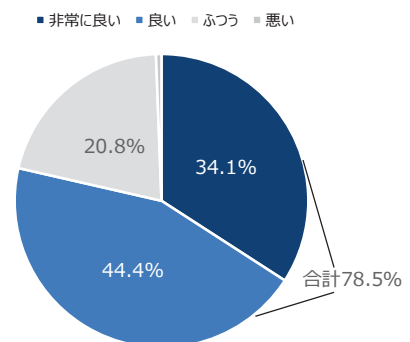
### 消費者への調査

- 福島県産牛肉を店頭でよく見かけた人の割合は、福島県が高く、他の地域では5%に満たなかった。  
➢ 福島県産牛肉を買ったことがあると認識している人の割合も福島県が最も高く、全国では6.0%であった。
- 福島県産牛肉の購買者に評価を尋ねたところ、「非常に良い」または「良い」と回答した人が78.5%であった。

福島県産牛肉を店頭で見えたか



福島県産牛肉購買者の評価 (n=331)



## 2. 調査実施概要

237

調査の全体像

**概要調査として行政機関の統計データ等を整理し、全体像を把握した。また、消費者へのアンケート調査により、消費者の福島県産品の購買実態や評価を把握した。さらに、取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る調査を実施し、推移の実態を分析した。**

	概要調査	アンケート調査	追跡調査
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>統計情報を整理し、生産・流通の実態を把握。</li> <li>市場での動向については、競合道県産品との比較分析を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者の福島県産品の購買実態や評価を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問面接により取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る調査を実施し、推移の実態を分析する。</li> <li>競合道県産の同品目についても調査の上、比較分析を行う。</li> </ul>
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政機関の統計データ。</li> <li>卸売市場データ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国の消費者。(5,500人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒毛和種。(A3、A4、A5等級のいずれか)</li> <li>福島県内食肉流通センター又は県外食肉卸売市場等を経由する流通経路。</li> </ul>
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>福島県における肉用牛の飼養頭数。</li> <li>卸売市場への出荷頭数。</li> <li>卸売市場における取引価格の競合県産品との比較。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福島県産牛肉の視認経験。</li> <li>福島県産牛肉の購買経験。</li> <li>牛肉購買時の重視点。</li> <li>福島県産牛肉の評価。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>流通ルートを抽出し、取引価格の追跡調査(各取引段階における関係者からの個別データ収集)を行う。</li> </ul>
各節との対応	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">各取引段階の“量”の変化</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">各取引段階の“価格”の変化</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">福島県産品に対する認識</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">各取引段階の“価格”の変化</div>

238

**各データを入手・分析し、最新の傾向を比較した。アンケート調査や追跡調査については、独自に情報を収集した。**

---

概要調査  
使用データ

- 農林水産省「畜産統計」。
- 東京都中央卸売市場「市場統計情報」。

アンケート  
調査

- 全国の消費者にWebアンケート調査を実施。
  - 5,500件を回収し、分析を実施した。

追跡  
調査

- 各事業者から入手した仕入データや販売データ※ 等。

※個社が特定できないようにするとともに、実額を非公表とすることを前提に一部事業者から受領。

---

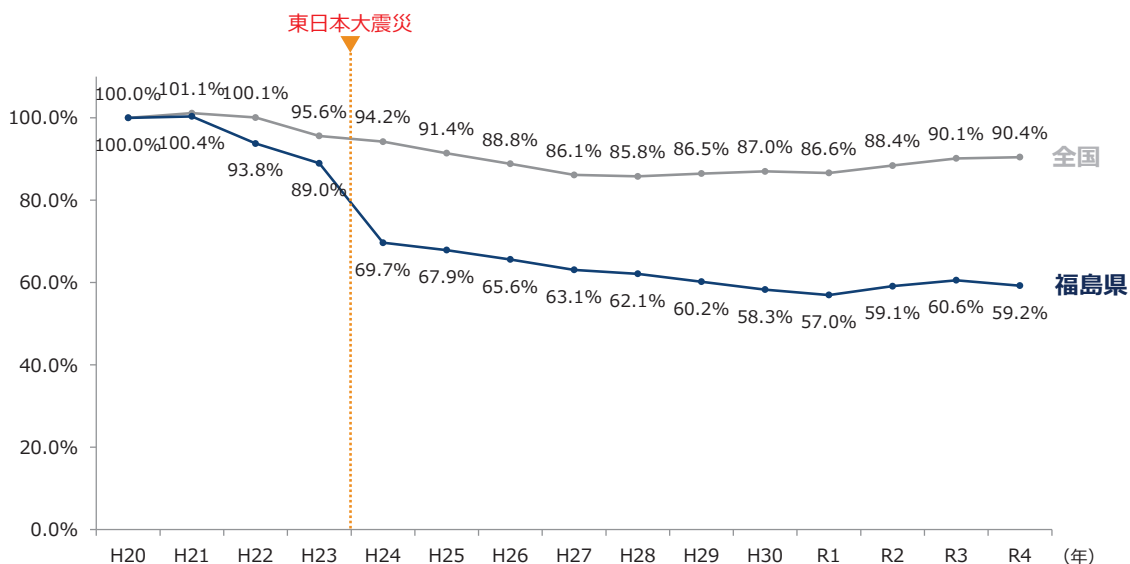
### 3. 各取引段階の“量”の変化

---

### 福島県産肉用牛の飼養頭数の推移

福島県産肉用牛の飼養頭数は、平成23年から24年の間にかけて大幅に減少した。その後も減少傾向にあったが、令和2年から僅かに増加し、近年は60%程度で推移している。全国においても平成22年から28年にかけて減少傾向であったが、近年は平成20年の90%程度で推移している。

全国・福島県産肉用牛の飼養頭数の推移（平成20年を100%とした値）

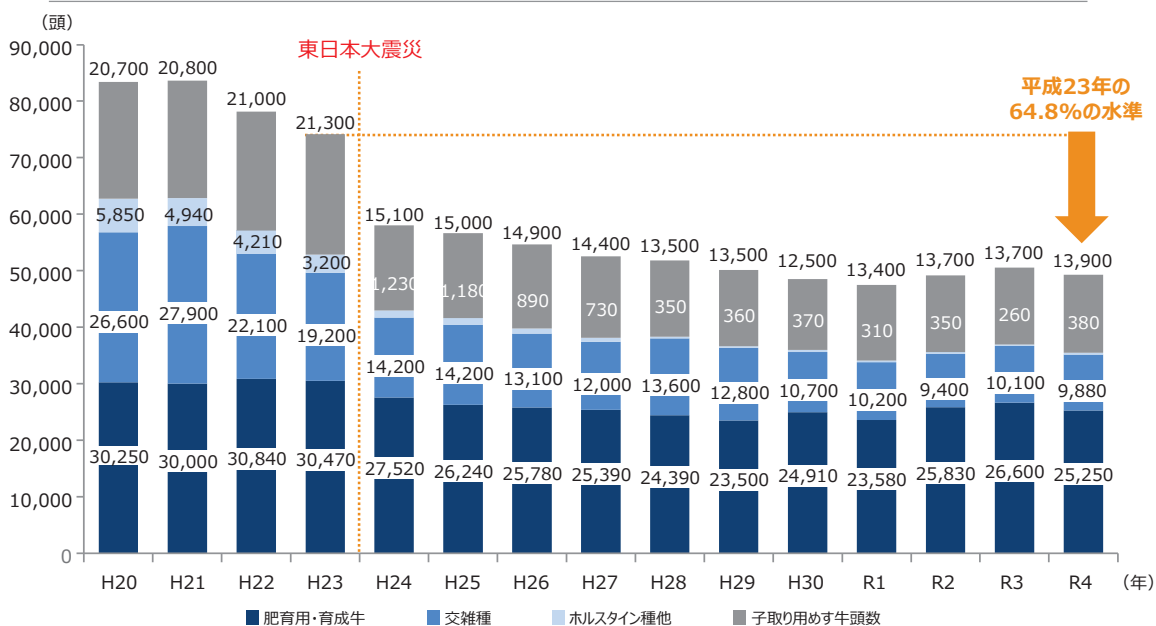


※上記の数値は、福島県内及び全国のそれぞれについて、平成20年の飼養頭数を100とした各年度の飼養頭数の割合。  
 ※飼養頭数は、毎年2月1日時点の値である（例：令和4年は、令和4年2月1日時点の飼養頭数）。  
 データ出所：農林水産省「畜産統計」

### 福島県における肉用牛の飼養頭数の推移

福島県産肉用牛の飼養頭数は、平成23年から平成24年にかけては交雑種やホルスタイン種他、子取り用めす牛頭数において減少が顕著であった。

福島県産肉用牛の飼養頭数の推移（畜種・飼養目的別）

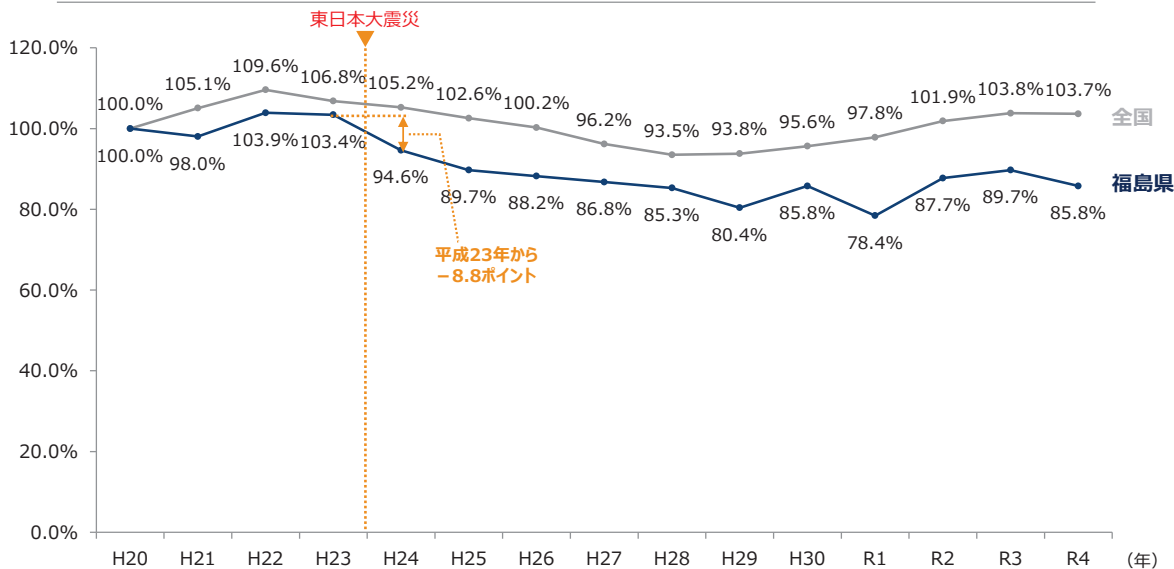


※飼養頭数は、毎年2月1日時点の値である（例：令和4年は、令和4年2月1日時点の飼養頭数）。  
 データ出所：農林水産省「畜産統計」

## 和牛の飼養頭数の推移

和牛の飼養頭数は、全国平均では平成22年をピークに減少傾向となったが平成29年以降は増加傾向である。他方、福島県では平成23年から平成24年にかけて8.8ポイント減少した後も減少傾向で推移していたが、令和2年以降は85%以上で推移している。

全国・福島県産和牛の飼養頭数の推移（平成20年を100%とした値）



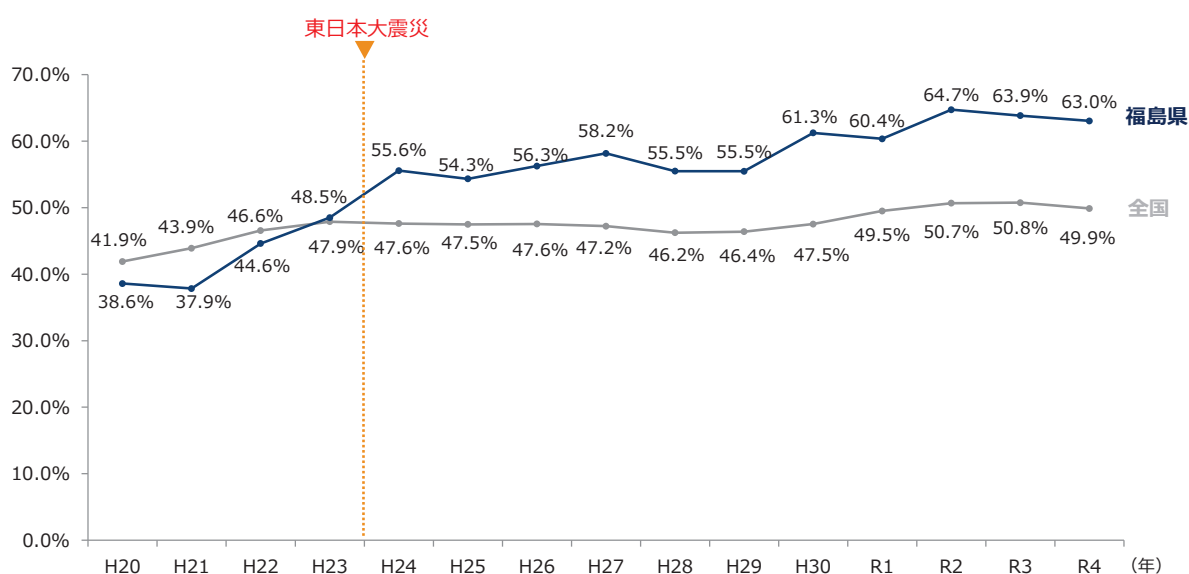
※飼養頭数は、毎年2月1日時点の値である（例：令和4年は、令和4年2月1日時点の飼養頭数）。  
 ※ここでの和牛とは、肉用種の肥育用牛と育成牛の合計値を指す。

データ出所：農林水産省「畜産統計」

## 肉用牛の総飼養頭数に対する和牛の割合

肉用牛の総飼養頭数に占める和牛の割合は、震災後、全国平均で横ばいないし微増傾向で推移する中、福島県では平成21年から平成24年にかけて17.7ポイント上昇し、令和4年も63.0%と全国平均の49.9%を上回る状況。

全国・福島県産肉用牛の総飼養頭数に対する和牛割合の推移

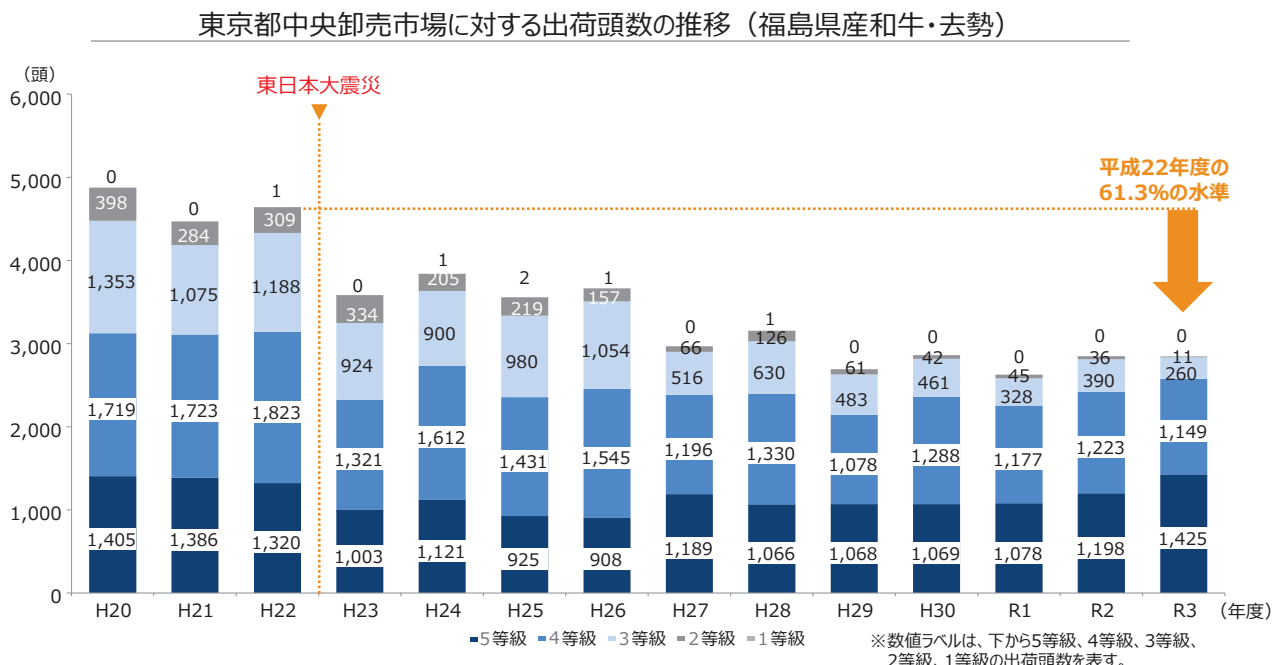


※飼養頭数は、毎年2月1日時点の値である（例：令和4年は、令和4年2月1日時点の飼養頭数）。  
 ※和牛の割合は、「肉用種の肥育用牛の飼養頭数」/（「肉用種の肥育用牛の飼養頭数」+「乳用種（ホルスタイン種他+交雑種）の飼養頭数」）のことを指す。

データ出所：農林水産省「畜産統計」

東京都中央卸売市場に対する出荷頭数の推移（福島県産和牛・去勢）

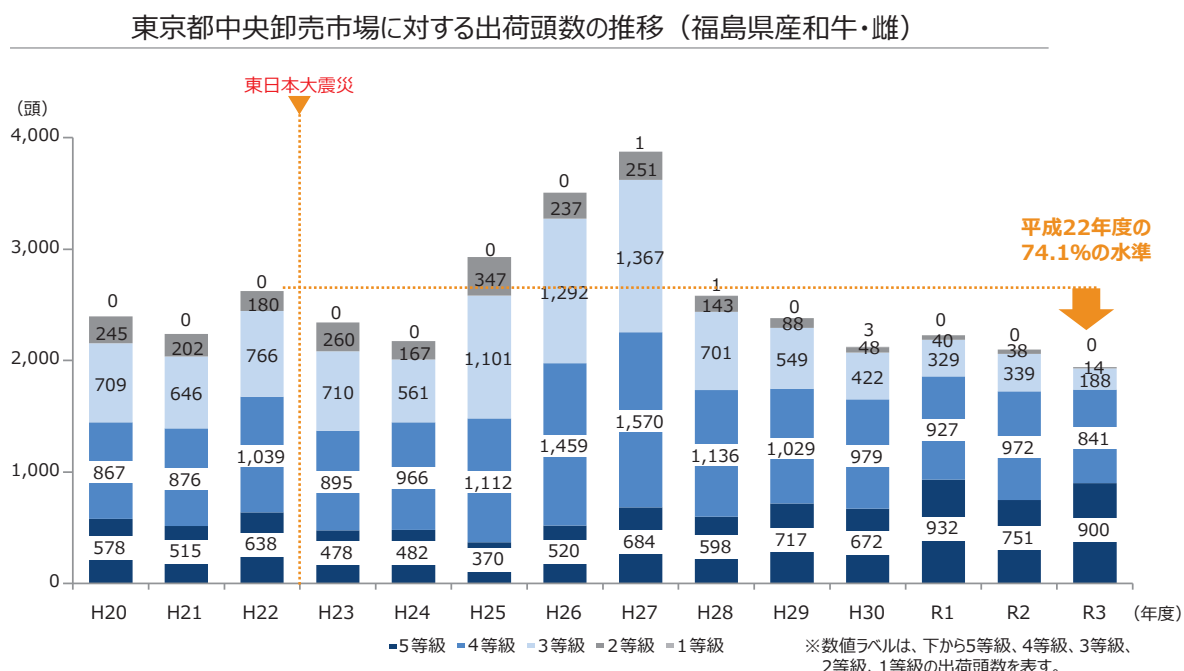
東京都中央卸売市場への福島県産和牛（去勢）の出荷頭数は、震災後、減少傾向で推移し、平成29年度以降は概ね横ばいの傾向である。また出荷頭数に占める上位等級（5等級・4等級）の割合は、平成27年度以降80%前後の高い比率で推移している。



データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

東京都中央卸売市場に対する出荷頭数の推移（福島県産和牛・雌）

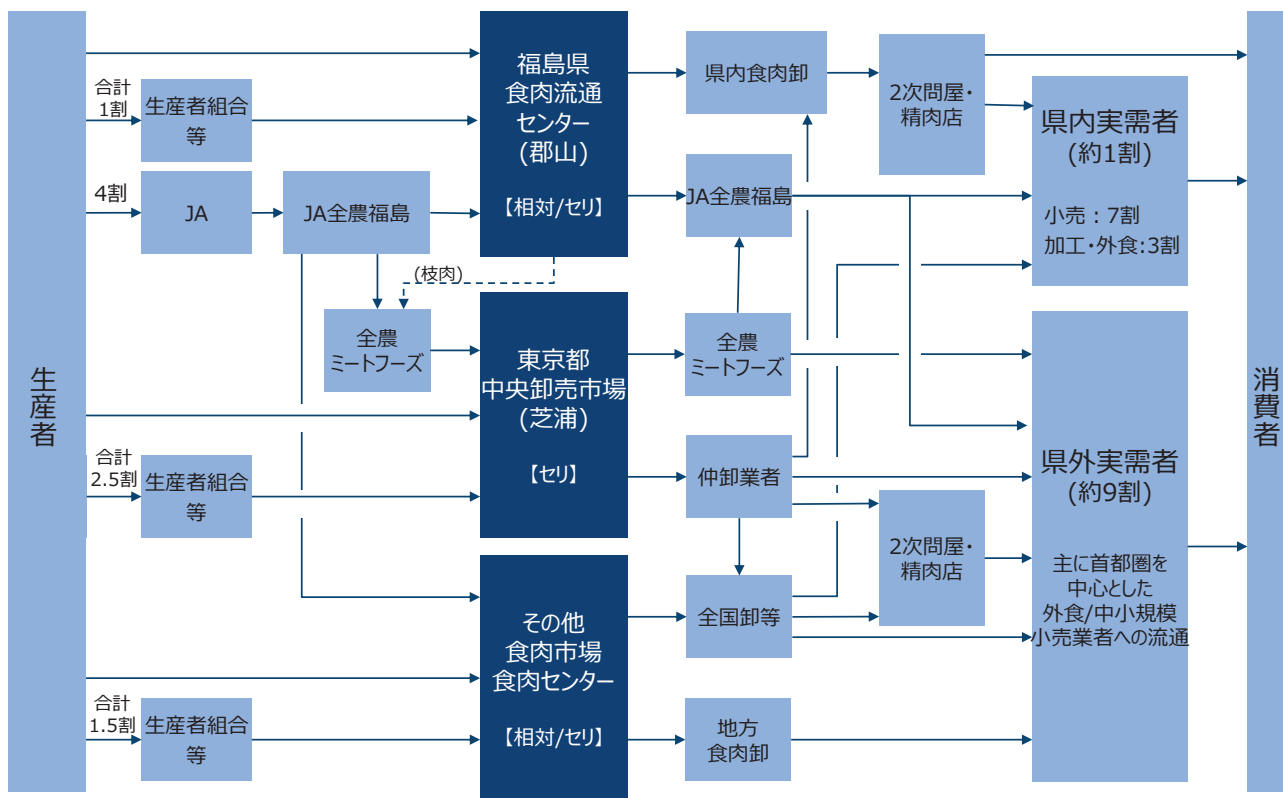
東京都中央卸売市場への福島県産和牛（雌）の出荷頭数は、平成22年度から平成24年度まで減少したが、その後増加傾向となり平成27年度にピークを迎えた。しかし、直近は減少傾向にあり、令和3年度は平成22年度の74.1%の水準となっている。



データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」



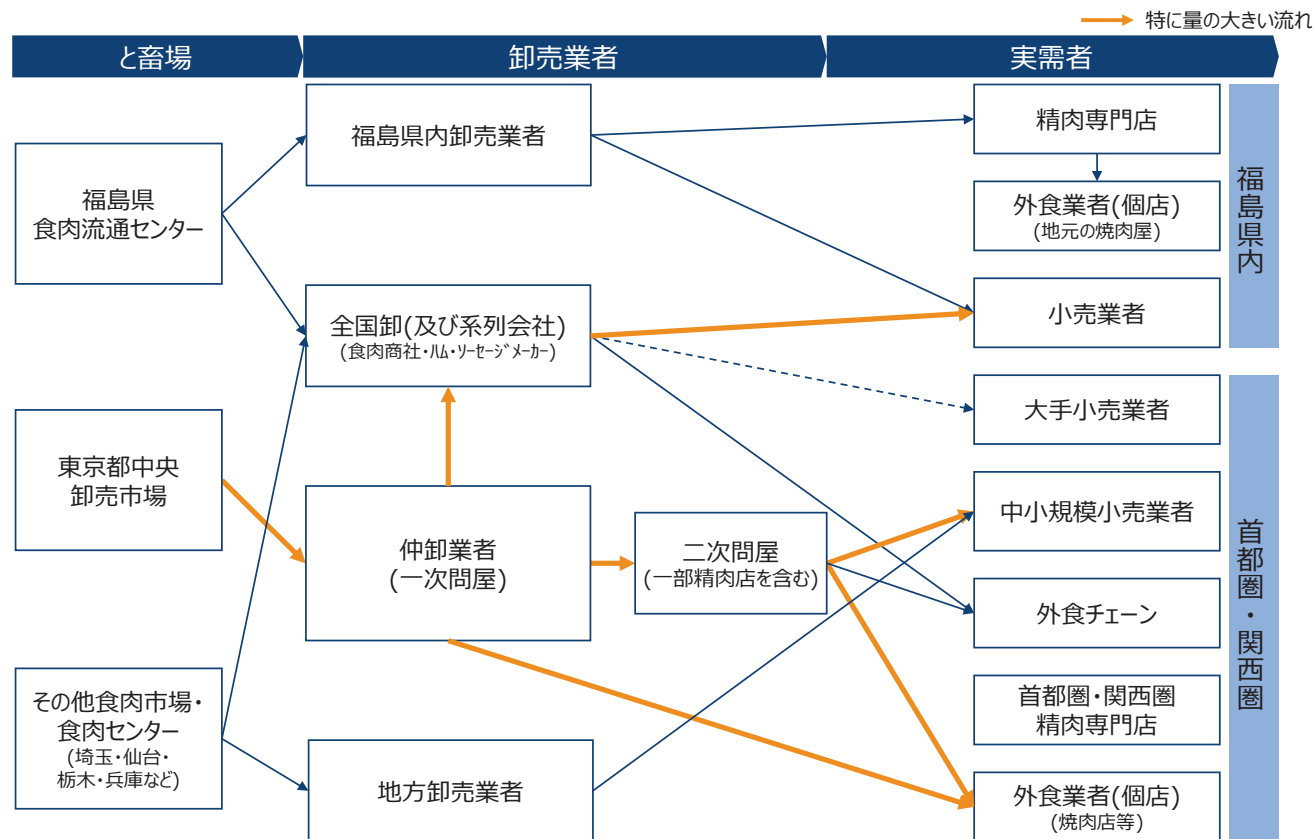
《参考》福島県産牛肉（和牛）の流通経路



データ出所：福島県畜産課「福島の畜産2015」及びヒアリング結果

※H29年度調査において作成。

《参考》福島県産牛肉の主要流通経路



出所：ヒアリング結果

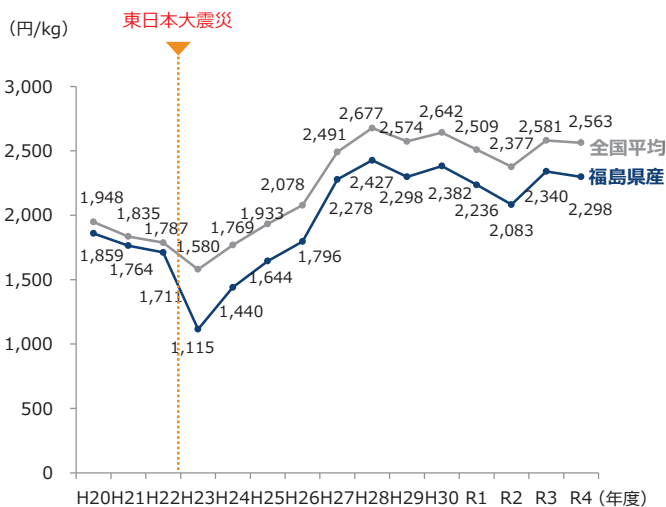
※H29年度調査において作成。

## 4. 各取引段階の“価格”の変化

福島県産和牛の価格回復概況（全国平均との価格差）

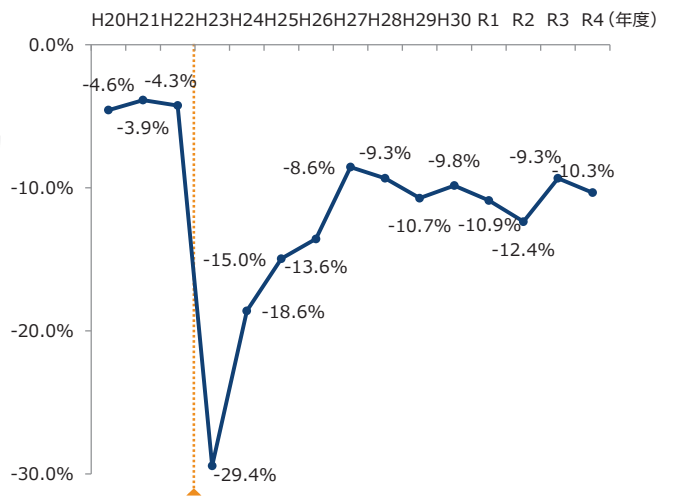
**福島県産和牛の枝肉価格は、震災直後に全国平均価格との差が拡大した。その後、平成27年度にかけて全国平均との価格差が縮まる動きが見られたものの、平成28年度以降は-10%程度で推移している。**

卸売市場平均価格推移（和牛全体）



- 震災前(H22年度)：1,711円/kg
- 震災後(R3年度)：2,298円/kg(+587円/kg)

全国平均との価格差推移（和牛全体）



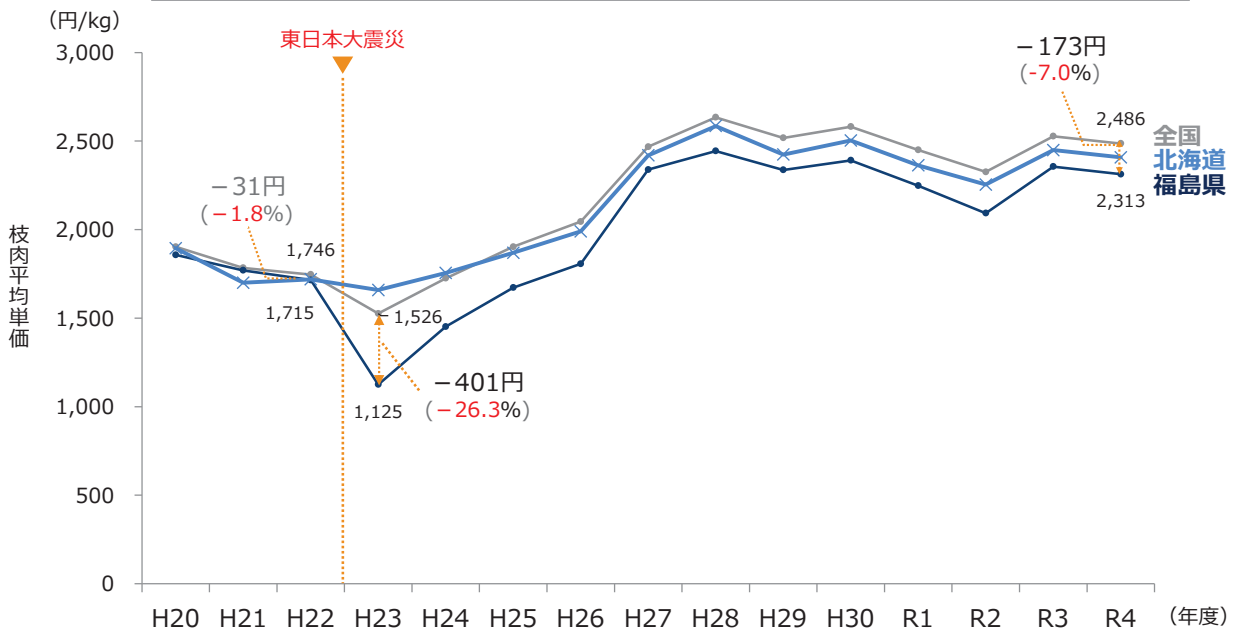
※福島県産及び全国平均ともに、枝肉価格は去勢と雌の平均単価を用いた。

データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」 ※令和4年度は、令和4年12月までの実績を使用。

福島県和牛の枝肉平均単価の推移（東京都中央卸売市場） 和牛・去勢

**福島県産和牛（去勢）の枝肉平均単価は、震災前は全国平均とほぼ同額で推移していたが、平成23年度に-26.3%まで価格差が拡大した。その後、価格差は縮小傾向にあるが、令和4年度は全国平均より7.0%安値となっている。**

東京都中央卸売市場における枝肉平均単価の推移（和牛・去勢）

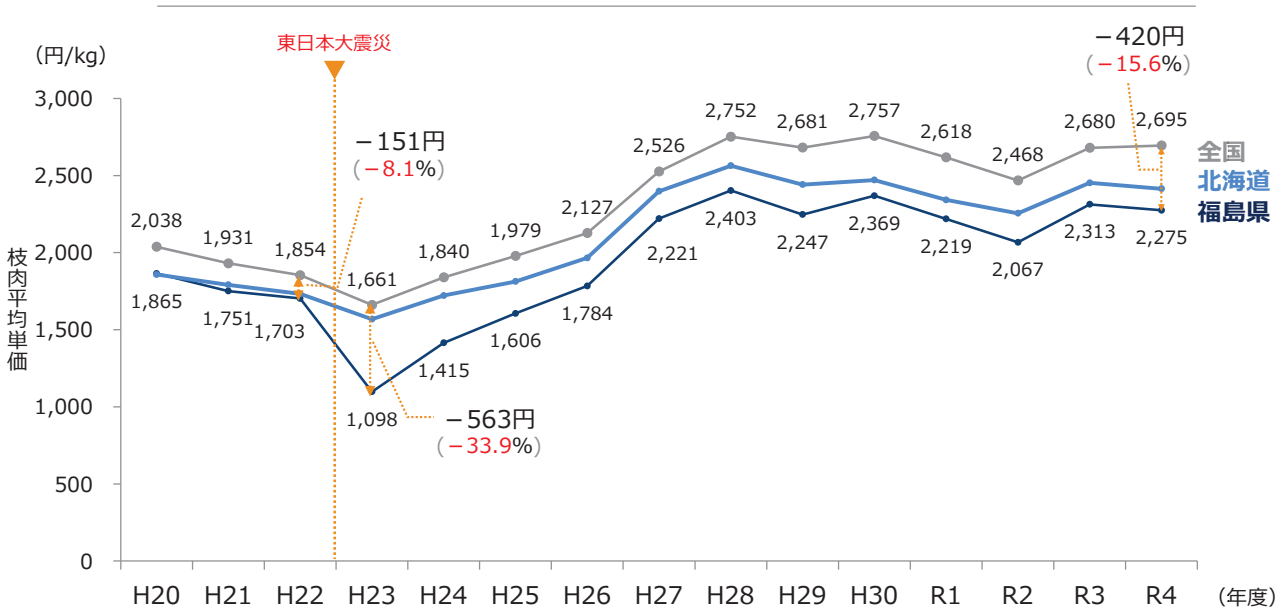


データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」 ※令和4年度は、令和4年12月までの実績を使用。

福島県和牛の枝肉平均単価の推移（東京都中央卸売市場） 和牛（雌）

**福島県産和牛（雌）の枝肉平均単価は、震災前は全国平均を8.1%下回っていたが、平成23年度に-33.9%と価格差が拡大した。その後、価格差は縮小傾向にあったが、近年は価格差が固定化しつつあり、令和4年度は全国平均より15.6%安値となっている。**

東京都中央卸売市場における枝肉平均単価の推移（和牛・雌）



データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」 ※令和4年度は、令和4年12月までの実績を使用。

## 福島県産牛肉の販売価格に関する事例調査を行い、分析を実施した。

### 概要

概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 枝肉価格や小売販売価格に係る情報を収集し、販売価格の実態を把握する。</li> <li>・ 他県産の同品目についても調査の上、比較分析を行う。</li> </ul>
対象商品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福島県産和牛（A3、A4、A5等級のいずれか）</li> <li>・ 競合道県産和牛（A3、A4、A5等級のいずれか）</li> </ul> <p>※食肉関係者へのヒアリングにより、A3、A4、A5等級となる牛肉は概ね黒毛和種であるとのことであり、本調査では交雑種やホルスタイン種を調査対象から除外し、黒毛和種の販売事例を調査した。</p> <p>※競合道県は、小売店舗において和牛が併売されている事例が限定されていることから、各チェーンにおいて、福島県産和牛と同一ランクで取り扱われている道県とし、事例ごとに設定した。</p>
対象期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期間：令和4年7月～11月</li> </ul>
調査ルート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福島県内の食肉市場を経由する福島県産和牛。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 競合道県産和牛については、生産道県の市場を経由する和牛を調査。</li> </ul> </li> <li>・ 福島県外の市場を経由する福島県産和牛。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 競合道県産和牛については、生産道県外の市場を経由する和牛を調査。</li> </ul> </li> </ul>

253

## 福島県産和牛や競合道県産和牛の小売店頭での取扱実態を調査するため、福島県内外で福島県産和牛の取扱いがある12店舗に対する小売店頭価格調査や、小売業者から提供いただいた仕入・販売価格データを分析する仕入・販売事例調査を実施した。

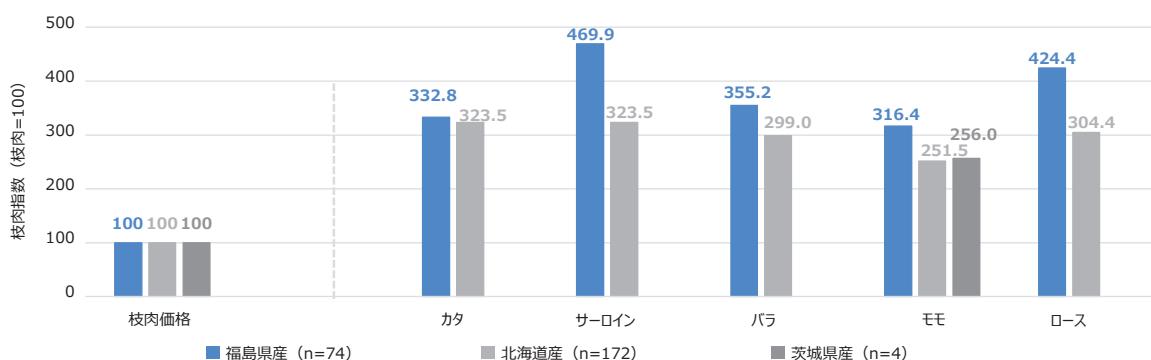
	小売店頭価格調査	仕入・販売事例調査
調査対象企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福島県内の店舗：7店舗</li> <li>・ 首都圏内の店舗：5店舗</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福島県内の事業者：2社</li> <li>・ 首都圏の事業者：1社</li> </ul>
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産地</li> <li>・ 商品名（販売部位）</li> <li>・ 小売単価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産地（福島県産和牛と同等のランクで取扱いがある他道県産和牛を含む）</li> <li>・ 仕入単価（仕入形態の情報を含む）</li> <li>・ 販売価格（部位別の標準販売単価）</li> </ul>
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和4年7月、9月、11月 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 7月、9月、11月の各月に1回ずつ合計3回、小売店頭価格等の情報を収集した。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和4年7月、9月、11月 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 7月、9月、11月の各月の仕入・販売データを提供いただいた。</li> </ul> </li> </ul>

254

福島県産牛肉の販売価格に関する事例調査 (2) 小売店頭価格調査 ①産地市場ルート

- 生産者→県内食肉流通センター（JA系統を含む。）→県内外仲卸売業者等→小売業者等のルート。
  - 北海道産和牛や茨城県産和牛については、生産者→北海道又は茨城県内市場→県内外仲卸売業者等→小売業者等のルート。
- 枝肉単価を100とすると、福島県産和牛は316.4～469.9、北海道産和牛は251.5～323.5、茨城県産和牛はモモのみであるが256.0と部位ごとに小売販売価格指数に違いがあった。
  - ただし、北海道産和牛や茨城県産和牛と比較して、福島県産和牛の各部位の価格指数が高い傾向が見られた。
  - ※枝肉単価は、福島県産和牛よりも北海道産和牛や茨城県産和牛の方が高い傾向にある。

県内市場を経由した和牛の小売価格指数

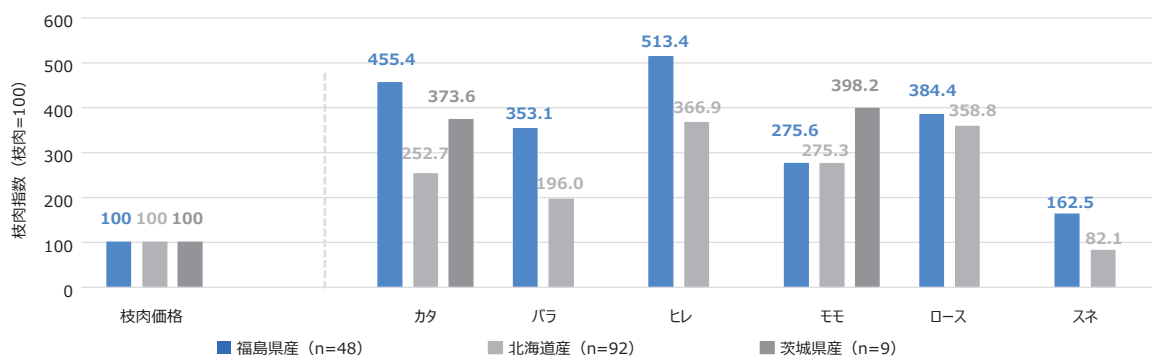


※枝肉価格を100とした指数。  
 ※枝肉価格は、東京都中央卸売市場における和牛の生体枝肉のデータを用いた。  
 ※福島県産、北海道産や茨城県産のそれぞれのn数は、調査で収集できたアイテム数。

福島県産牛肉の販売価格に関する事例調査 (2) 小売店頭価格調査 ②県外市場ルート

- 生産者→県外食肉卸売市場等→小売業者等のルート。
  - 北海道産和牛や茨城県産和牛については、生産者→北海道又は茨城県外市場等→小売業者等のルート。
- 枝肉単価を100とすると、福島県産和牛は162.5～513.4、北海道産和牛は82.1～366.9、茨城県産和牛はカタとモモのみであるが、373.6～398.2と部位ごとに小売販売価格指数に違いがあった。
  - ただし、北海道産和牛や茨城県産和牛と比較して、モモを除き福島県産和牛の各部位の価格指数が高い傾向が見られた。
  - ※枝肉単価は、福島県産和牛よりも北海道産和牛や茨城県産和牛の方が高い傾向にある。

県外市場を経由した和牛の小売価格指数

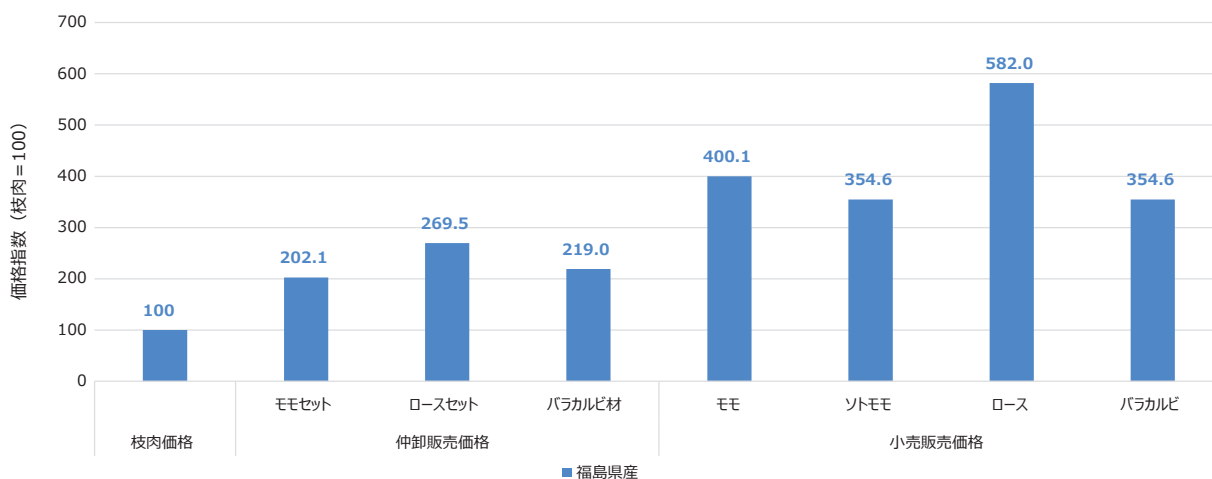


※枝肉価格を100とした指数。  
 ※枝肉価格は、東京都中央卸売市場における和牛の生体枝肉のデータを用いた。  
 ※福島県産、北海道産や茨城県産のそれぞれのn数は、調査で収集できたアイテム数。

福島県産牛肉の販売価格に関する事例調査 (3) 仕入・販売事例調査 ①A社

- 同社は福島県を中心に複数県に店舗を有している量販店である。
- 各店舗では、地産地消を重視し、店舗が位置している県産の銘柄和牛を中心に取り扱っている。
- 仲卸業者に対しては、産地、等級や仕入価格の目安を提示し、条件に合う枝肉を複数市場から仕入れている。
- 標準小売販売価格は本部が品質ごとの目安を提示し、各店舗がその価格を目安に値付けを行っている。
- 標準小売販売価格は同一部位や同一等級であれば基本的には同一価格が設定されている。

A社における和牛の価格形成

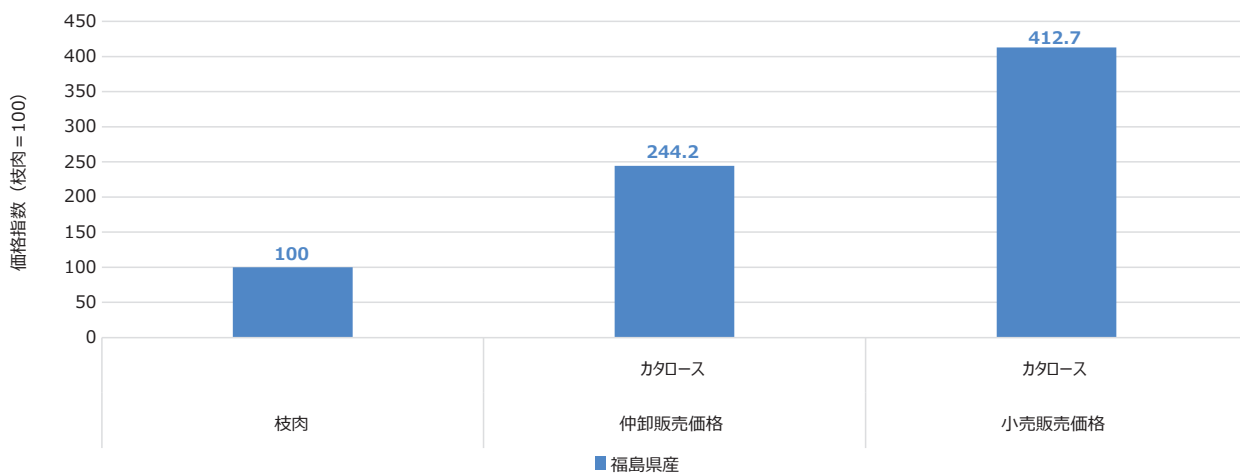


※枝肉価格を100とした指数。  
 ※枝肉価格は、東京都中央卸売市場における和牛の生体枝肉のデータを用いた。

福島県産牛肉の販売価格に関する事例調査 (3) 仕入・販売事例調査 ②B社

- 同社は福島県内に店舗を有している量販店である。
- 福島県産和牛は福島県内の一部店舗で取り扱っている。
- 同社は、令和元年まで福島県産和牛に加え鹿児島県産和牛を産地指定で仕入れていたが、取扱いを中止した。
- 福島県産和牛は店舗独自の仕入れや仲卸業者からの提案による仕入れが中心である。また、等級はA4等級を指定している。

B社における和牛の価格形成



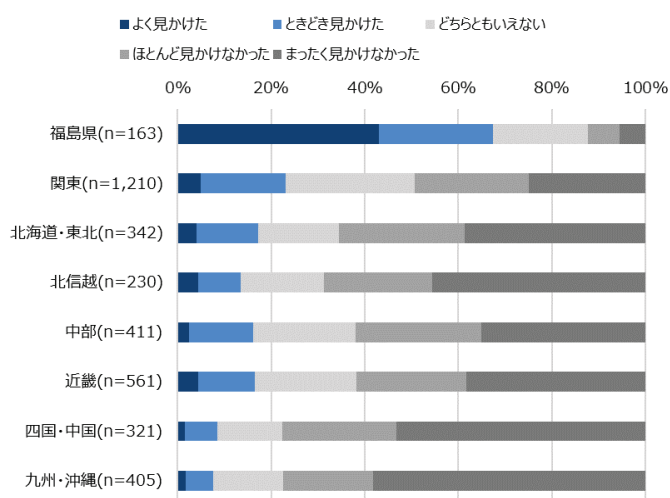
※枝肉価格を100とした指数。  
 ※枝肉価格は、東京都中央卸売市場における和牛の生体枝肉のデータを用いた。

## 5. 福島県産品に対する認識

福島県産牛肉を見た経験と購買経験（消費者アンケート）

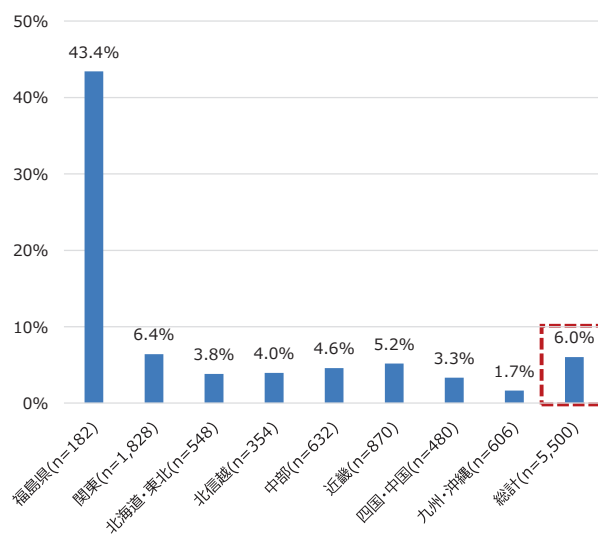
**福島県産牛肉を店頭でよく見かけた人の割合は、福島県で高く、他の地域では5%に満たない。福島県産牛肉を買ったことがあると認識している人の割合も福島県が最も高く、全国では6.0%であった。**

福島県産牛肉を店頭で見たか



※過去1～2年に、店頭で福島県産牛肉を見た記憶を尋ねた。  
 ※nは「分からない」を選択した回答者を除いて算出。

福島県産牛肉の購買経験率

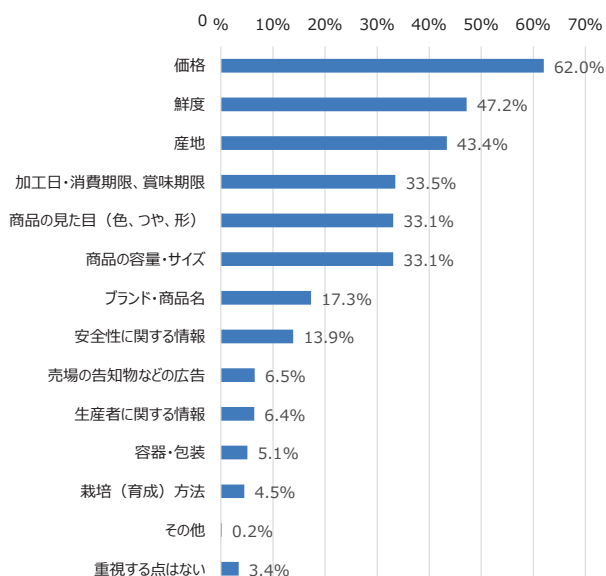


※購買経験率=1度でも購買したことがある人数/回答者数  
 ※記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていれば購買経験なしとなる。

牛肉購買時の重視点と購買者の評価（消費者アンケート）

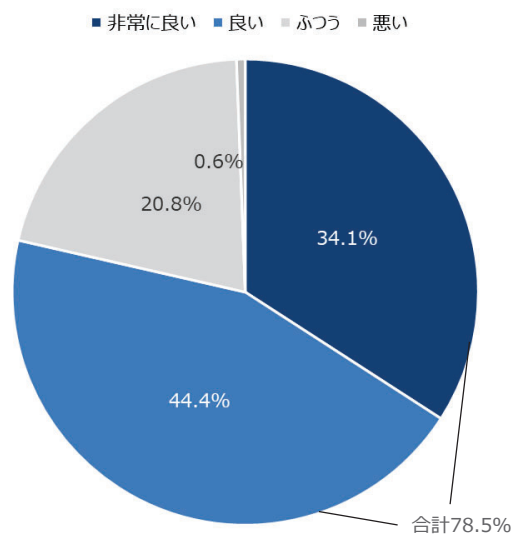
**福島県産に限らず、牛肉購買時の重視点を尋ねたところ、「価格」が上位にあがり、次いで「鮮度」と「産地」があがった。福島県産牛肉の購買者に評価を尋ねたところ、「非常に良い」または「良い」と回答した人が78.5%であった。**

牛肉購買時の重視点（n=4,238、複数回答）



※牛肉購買時の重視点は、福島県産に限らない質問。  
 ※月に1回以上牛肉を購入している回答者のみに尋ねた質問。

福島県産牛肉購買者の評価（n=331）



※福島県産牛肉を買ったことがある回答者のみに尋ねた質問。